

岩田出土の移動展から 愉快なお話

平成 27 年 2 月 7,8 日 岩公民館にて

先日、岩公民館において県博物館の移動展が行われました。展示された内容は、国道156号線のバイパス工事に伴う発掘の出土品であり古代・中世・近世と様々な物の展示であった。



その中に、岩田西遺跡の出土品に興味を引く展示が2つあった。一つは、「ももの種」。祭祀に使用したと思われる壺の中に1つあったと報告されていた。桃の種といえば、以前、

卑弥呼の遺跡であろうと言われる纏向(まきむく)遺跡から大量に出土したと報告されている。

古代の中国や日本では、モモの実は長寿・不老不死をもたらす不思議な実、破邪の力を持つ神聖な果実として扱われてきた。中国神話では、全ての天女の頂点に立つ女神・西王母(さいおうぼ)は、西方の崑崙山に住み「蟠桃園」というモモ園を所有しており、三千年に一度実をつけ、長寿や不老不死の効力があるという「王母桃」を栽培していたという。そして三千年に一度、神々や仙人などを招待して宴を開き、その仙桃を振る舞ったと伝えられている。日本の神話では、イザナギがモモの実を投げて黄泉の国の追つてから逃げ延びたという話がある。この話が出来上がるころ、すでに「桃=魔除け」と言う思想が日本にもあったとされ、纏向遺跡の出土から、3世紀中頃の神事にモモの果実が用いられていた可能性は十分にあると報告されている。

桃太郎のお話は、鬼退治であり、邪気を払うということです。私ども禅宗では、お盆「施餓鬼会(施食会)」という法要を盛大に行います。法要の狙いは「先祖のみならず餓鬼をも含めたすべての有情に供養しよう」という趣旨です。祭壇を本堂の南側にしつらえ、導師は南面して勤めます。その祭壇には、「桃」を供えないように教えられています。施餓鬼棚の高さは三尺程度、ミソハギという花を添えてお勤めするのです。餓鬼身は小人のようであり、ミソハギのある所の水を飲むことが出来るという古来からの口伝があります。



釈迦の教えには、「邪気を払う、汚れを祓う」ばかりでは無く、邪気や餓鬼にも施しを与えるという慈悲心あふれる教えもあるのです。一粒のモモの種からの愉快な話をレポートしました。

現代	近世	中世	古代	古墳	弥生	
大正 明治	江戸 室桃山	戦国 室町	南北朝 鎌倉	奈良 平安	飛鳥	
濃尾震災で火災 (岩田東 A)	矢島醸造が酒造 (岩田東 A)	3畳ほどの広さの地下室を ほる (倉庫か?) (中野教清跡)	岩田に武将 (岩田西・岩田東 A)	水田か広がる (岩田西) 芥見に武将 (芥見明歴)	古墳の石室でおまつり (中野教清跡) 役所の出張所か寺がつく られたようだ (岩田西) 東山道が通り、陶器の生 産が行われた	川のほとりでモモのまつり (西) 大きな石室の古墳をつくる (中野教清跡) お墓 (方形周溝墓) をつくる (岩田東 A)
遺跡が語る岩田の歴史						

二つ目は、古代瓦と硯の展示です。昔、寺は役所であり、当然そこには書き物としての硯や墨が存在したと思われます。

林陽寺は、その昔、今の場所ではなく、発掘された岩田西遺跡のあたり、縁起によれば「岩田の羽場西

遇に村社「八幡神社」(現 伊波乃西神社)がある。大師はその南に、堂宇を建立し(延暦15年-796年-)とある、昔「清水の桜の木」のあったあたりとされている、その



後、現在の北山鶴飼屋に移したと記されています。奈良時代後半から平安時代の初めのお話です。出土品と林陽寺の縁起から想像してみました。愉快なお話

しその2でした。